

作成日 : 2013年2月15日

改訂日 : 2020年2月3日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	バニラ オイル NO.1025
会社名	株式会社ナリヅカコーポレーション
住 所	東京都港区白金台1-2-16
担当部門	開発課
電話番号	03-3445-5131

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

引火性液体	: 区分3
急性毒性(経口)	: 分類できない
急性毒性(経皮)	: 分類できない
急性毒性(吸入)	: 分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分2A
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 区分1A
生殖毒性	: 区分1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)
誤えん有害性	: 分類できない
水生環境有害性 短期(急性)	: 分類できない
水生環境慢性有害性 長期(慢性)	: 分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル、注意喚起語



危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
強い眼刺激
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(肝臓)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(中枢神経系)

注意書き

- ・ ご使用前にSDSをお読みください。
- ・ 火気厳禁。電気機器類、静電気、スパークなどによる着火源を生じないようにする。
- ・ 保護手袋、保護眼鏡等を着用すること。
- ・ 換気の良い場所で使用し、揮発成分の蒸気(ベーパー)・粉じんの吸入を極力避けること。
- ・ 取扱い後は充分に手洗いをする。
- ・ 皮膚や衣服に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
- ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。
- ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断・手当てを受けること。
- ・ 眼や皮膚の刺激又は発しんが生じた場合や吸入し気分が悪い場合は、医師の診断・手当てを受けること。
- ・ 換気のある冷暗所(又は指定の場所)に密閉して適切に保管すること。
- ・ 残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
一般名	食品添加物	香料製剤	
成分及び含有量	成分名	CAS No.	含有量
	エタノール	64-17-5	10～20%

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、頭を低くして横向きに寝かせ、身体保温に努める。
被災者が意識を失っている場合は、口の中の異物を取り除く。
被災者の呼吸が止まった場合は、速やかに人工呼吸を行う。
応急措置を施した後、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 石けんで充分洗浄後、清浄な水で洗い流す。
必要に応じて医師の診断を受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分以上洗眼した後、速やかに眼科医の診断を受ける。
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄する。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませて希釈する。
無理に吐かせてはいけない。
被災者に意識が無い場合には、口から何も与えてもいけないし、吐かせようとしてもいけない。
応急措置を施した後、必要に応じて医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水噴霧、乾燥砂、粉末消火剤、二酸化炭素、泡沫消火剤等。
- 特有の消火方法 : 消火剤を火元へ放射、散布等をして消火する。
消火作業は可能な限り風上から行う。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移動する。
火災発生場所の周辺には関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行なう者の保護 : 消火作業では、状況に応じて適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置
環境に対する注意事項
回収、中和、封じ込め
及び浄化方法・機材
二次災害の防止策
- : 作業の際、吸入や皮膚に触れないよう、適切な保護具を着用し、換気を良くして処理する。
: 流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないように留意する。
: 少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密封できる金属容器等に回収して適切に処理する。
多量の場合には、盛土で囲って流失を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
: 付近にある着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
安全取扱注意事項
- : 局所排気装置の設置、設備の密閉化又は全体換気を適正に行うこと。
: 火気厳禁、電気機器類、静電気、スパーク等による着火源を生じないようにする。
ばく露防止の為、適切な保護具を着用して作業を行う。
蒸気の吸入、皮膚への接触を避ける。
取扱い後は十分に手洗いをする。

保管

- 保管条件
- : 適切な換気のある乾燥した冷暗所(又は指定の場所)に密栓して保管する。
消防法、労働安全衛生法等の法令の定めるところに従う。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度 :

成分名	管理濃度	許容濃度		
		日本産業衛生学会 ¹⁾	ACGIH(TWA) ²⁾	ACGIH(STEL) ²⁾
エタノール	—	—	—	1000ppm

- 設備対策 : 取扱いの際は、密閉された装置又は局所排気装置を使用する。

保護具

- 呼吸器の保護具 : 呼吸用保護具
手の保護具 : 保護手袋
目の保護具 : 保護眼鏡
皮膚及び身体への保護具 : 保護服(長袖作業服等)

9. 物理的及び化学的性質

外観

- 形状 : 液体
色 : 黒褐色
臭い : 特有の香気を有する
沸点、初留点及び沸騰範囲 : データなし
引火点 : 34.0℃(タグ密閉式)
燃焼又は爆発範囲の上限・下限 : データなし
蒸気圧 : データなし
比重 : 1.010~1.030(20℃)
自然発火温度 : データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 通常の条件下では、安定で、自己重合性はない。
反応性	: 通常の条件下では、反応性はない。
危険有害反応可能性	: 特記すべき反応性はない。
避けるべき条件	: 特記すべき条件はない。
混触危険物質	: 特記すべき物質はない。
危険有害な分解生成物	: 自己分解により有毒ガスを発生することはない。

11. 有害性情報

製品(混合物)及び主要成分の情報(GHS分類)は、別表のとおり。

12. 環境影響情報

製品(混合物)及び主要成分の情報(GHS分類)は、別表のとおり。

13. 廃棄上の注意

残余内容物、容器、包装等は、産業廃棄物として適正に処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制

陸上輸送 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送 船舶安全法に定められている輸送方法に従う。

航空輸送 航空法に定められている輸送方法に従う。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

: 容器を転倒、落下等粗暴な取扱いをしない。

: 火気厳禁とする。

緊急時対応措置指針 : 指針番号 129

国際規制

国連番号 : 1197

国連輸送名 : EXTRACTS, FLAVOURING, LIQUID

国連分類 : 3 (引火性液体類)

容器等級 : III

海洋汚染物質 : 非該当

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 表示対象物質

通知対象物質

消防法 : 第四類 第二石油類 危険等級Ⅲ 火気厳禁

食品衛生法 : 食品添加物

16. その他の情報

引用文献

- 1) 日本産業衛生学会誌(2013年度版)
- 2) Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices (ACGIH) 2013年度版
- 3) 香料のGHS対応の手引き(改訂第2版) 日本香料工業会
- 4) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)GHS分類結果
- 5) 香料の表示指針(2013年版) 日本香料工業会
- 6) IFRA-IOFI Labeling Manual 2013

記載内容の取扱いについて

記載内容は現時点で当社が入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。
また注意事項は通常の見取り方を対象としたものですので、特別な見取り方をする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お見取り願います。

別表

製品(混合物)及び主要成分の有害性情報、環境影響情報 (GHS分類) 3)、4)、6)

有害性項目	製品(混合物) GHS分類	主要成分のGHS分類	
		エタノール	
急性毒性(経口)	分類できない	区分外	
急性毒性(経皮)	分類できない	区分外	
急性毒性(吸入)	分類できない	区分外	
皮膚腐食性/皮膚刺激性	分類できない	区分外	
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A	区分2B	
呼吸器感作性	分類できない	分類できない	
皮膚感作性	分類できない	分類できない	
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない	
発がん性	区分1A	区分1A	
生殖毒性	区分1A	区分1A	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない	区分3(気道刺激性、麻酔作用)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)	区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)	
誤えん有害性	分類できない	分類できない	
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	区分外	
水生環境慢性有害性 長期(慢性)	分類できない	区分外	

有害性項目	主要成分のGHS分類		
急性毒性(経口)			
急性毒性(経皮)			
急性毒性(吸入)			
皮膚腐食性/皮膚刺激性			
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性			
呼吸器感作性			
皮膚感作性			
生殖細胞変異原性			
発がん性			
生殖毒性			
特定標的臓器毒性(単回ばく露)			
特定標的臓器毒性(反復ばく露)			
誤えん有害性			
水生環境有害性 短期(急性)			
水生環境慢性有害性 長期(慢性)			